

国外における一般市民への医学情報提供の現状

文献的考察

若杉亜矢¹⁾、神山貴子²⁾、山室眞知子³⁾、杉本節子⁴⁾

¹⁾ 松下記念病院、²⁾ 京都桂病院

³⁾ 元京都南病院、⁴⁾ 相愛大学

【はじめに】

国外、特にアメリカでは一般市民が健康情報を知りたいと思ったら、公共図書館へ行くのが常識である。本国では、病院や医科大学においても患者図書室の社会的認識がやっと高まりつつある。本研究は「国外における一般市民への医学情報提供の現状」を主題として、「医学図書館のはたらきかけ」「病院図書館の発達過程」「病院図書館・医学図書館の現状」の視点から文献的調査を行なった。

【目的】

本研究は「国外における一般市民への医学情報提供の現状」を主題に、文献より国外の現状を考察し、わが国における一般市民への医学情報提供の推進に貢献することを目的としている。

【方法】

主にPubMedより検索。また、検索エンジンGoogleからも検索を行った。検索ツールおよび検索語が英語を主としたため英語圏の文献に限定された。

【考察】

図書館員から患者や一般市民への積極的な活動を垣間見ることができた。健康情報の需要や政府の援助などを各文献から拾い上げて検討を行った。

【結果】

今回の研究を通して、日本はアメリカに比べ、健康情報に関する認識やサービスなどまだまだ追いついていないということを改めて感じた。アメリカでは当たり前のように行われている健康情報の提供は、今後検討していくべき大きな課題であり、病院図書室をはじめ各種図書館それぞれの対応とお互いの連携を考慮すべきである。

本研究は近畿病院図書室協議会より助成金を受けて調査を行っている研究である。